

《文学部》

－大和の自然と文化に関する学際的研究－

I. 研究目的と研究計画

大和は、古代だけがあまりにも注目され、中世以降はみるところが乏しいかに思われがちであるが、そこにも豊かな歴史と文化がひそんでいた。しかしながら、奈良県下における人文科学分野の総合的学術研究の立ち遅れは、早くから指摘されている。とりわけ、埋蔵文化財以外の部門においては、基礎的データの収集さえほとんど着手されておらず、またそうした状況を打開する動きもなかった。

しかも、京阪の大都市に近く立地しているため、近年の急速な開発と人口の増加による自然と文化の破壊が急激である。とくに、古文書・古記録等の破壊・散逸が大きな問題となっている。いま対策を放置すれば取り返しがつかない深刻な状況にある。

本研究は、目的の急務である歴史・文化財・地理・文学の各分野における資料・データなどの調査・収集・分野整理を相互に協力して実施し、研究の共通資料を作製して、今後の研究の目標を確定することを目的とし、次のような調査研究活動を計画・実施した。

大和に関する歴史史料の収集は、これまでは大寺社にかたより、中世末期から近世以降の史料収集は緒についたばかりであり、未発掘の文書も少なくないうえに、全時代を通じて公刊されているものも、完全ではないものが多い。急速な社会の変化と開発による散逸・損壊を防止するため、市町村史編纂室や寺社・個人の所蔵者等と提携して、大和に関する史料の全面的な収集と保存に努める。

明治年間につくられた調査台帳を入手活用して、大寺院のみならず、中小あるいは廃絶した寺社に注目し、美術工芸・建築・考古学遺物などの資料調査と収集と保護に努める。

地域の風土性を重視する地理学の立場から、奈良盆地の地形・気候・水文・産業・集落・文化などに関し、古代から現代に到る全面的な研究の資料を収集する。

各時代の多様な文学活動をさぐり、全時代にわたる資料を収集するとともに、日本文学史上に占める大和の位置をきわめようとする。

調査活動は、可能なかぎり共同して実施し、同時に各分野の調査研究の成果を相互に検討して、“大和における風土と文化”の全体像を構成し、本学の教学の理念である“伝統と現代感覚の調和”の具体化の方途を探ろうとした。

また、調査活動に専攻学生の積極的な参加を奨励し、ゼミナールや講読・実習・野外調査などの教科においても教育指導に本研究の成果を生かし、あわせて地域社会との連帯意識の涵養、具体的な問題解決能力の向上などにつとめ、特色ある教育研究の具体的な方法論の確立に寄与

することによって、今後、奈良大学総合研究所の核心的なプロジェクトを構成しようとする意図をも、あわせ有するものである。個別の課題とそれに対する調査研究の内容と成果については、各学科ごとの報告を参照されたい。

Ⅱ. 組織

本特別研究を運営するため、運営委員会を組織した。研究代表および運営委員は下記のとおりである。研究には、文学部教員があたることとし、平成3年度には、他学部よりの参加を要請することとして、教養部朝倉弘教授の参加をえた。

| | | | | | |
|-------|----|---------|----|-------|---------|
| 平成元年度 | 代表 | 鎌田道隆教授 | 委員 | 国文学科 | 永井一彰助教授 |
| | | | | 史学科 | 鎌田道隆教授 |
| | | | | 地理学科 | 藤田裕嗣講師 |
| | | | | 文化財学科 | 泉拓良助教授 |
| 平成2年度 | 代表 | 水野柳太郎教授 | 委員 | 国文学科 | 浅田隆教授 |
| | | | | 史学科 | 水野柳太郎教授 |
| | | | | 地理学科 | 野崎清孝教授 |
| | | | | 文化財学科 | 井上正教授 |
| 平成3年度 | 代表 | 井上正教授 | 委員 | 国文学科 | 松前健教授 |
| | | | | 史学科 | 松山宏教授 |
| | | | | 地理学科 | 野崎清孝教授 |
| | | | | 文化財学科 | 井上正教授 |

Ⅲ. 経費

平成元年度 3,000,000円

平成2年度 2,980,000円

平成3年度 3,000,000円

なお、本研究に対し、日本私学振興財団より3か年にわたり、特色ある教育研究として経常費補助金特別補助を交付された。記して感謝の意を表する。

(水野 柳太郎)

史 学 科

大和の産業・庶民生活史料の収集と
市町村単位の史料所在調査

調査研究には、平成元年度と平成2年度は、文学部史学科教員が担当した。平成3年度は、学部・学科をこえて広く研究の体制を整備することとなり、教養部朝倉教授の参加をえた。

○平成元年度

代表者 鎌田 担当者 松山・水野・明石

(1) 調査開始

調査研究の開始にあたり、奈良県教育委員会文化財保存課及び奈良市教育委員会文化課に対し、情報交換と史料の提供を申し入れ、県教育委員会の公刊した資料目録・民俗文化財関係の調査報告書と、市教育委員会公刊の奈良市古文書調査目録を入手した。

(2) 現地調査

現地調査は、奈良県西南部の五條市と御所市を対象地域として、現地に出張して、両市教育委員会に対し情報交換と調査協力を依頼した。なお、調査とともに、『五条市史』・『御所市史』に引用されている史料から、両市の史料所在目録作成を行なった。(松山・鎌田・明石)

奈良県立図書館郷土資料室所蔵藤田文庫の一部をマイクロフィルムで収集し、さらに、三重県上野市立図書館所蔵の西島家文書もマイクロフィルムによる収集を行なった。藤田文庫は奈良市内の、西島家文書は藤堂藩農村部の、江戸期における庶民生活を解明する資料として、きわめて有益なものである。(鎌田)

(3) 史料整理

近代への見通しの必要から、奈良関係新聞記事の目録化に着手し、大阪朝日新聞奈良版記事の索引カードを作成した。(明石)

(4) 合同調査

十津川村地域の現地観察を主催し、学内から多数の参加をえた。

○平成2年度

平成元年度に引き続き調査を続行し、近世・近代の文書整理を並行して実地した。

代表者 水野 担当者 松山・鎌田・明石

(1) 現地調査

吉野郡下市町・大淀町・吉野町の各教育委員会を尋ね、町史編纂担当者・文化財担当者に面会して、町史編纂の状況・編集史料の保存状況・古文書等史料の所在等を聞き取り、今後の調査に対する依頼を行なった。3町とも系統的な史料保存の実績はなく、個人に依頼してい

る状況で、今後の計画も立てられていなかった。吉野町においては、宮滝資料館の建設に関する援助の要請があった。（松山・水野・鎌田・明石）

(2) 史料調査及び整理作業

桜井市鹿路の大浦家文書の調査を実施した。文禄年間（1592～1596）から明治年間（1867～1912）にいたる、一紙文書・冊子記録がかなりあって、近世のものには年貢関係・書状等約1000点、明治以降は役場の公文書が多く、土地関係文書を含んで約200点があった。（松山・水野・鎌田・明石）

大浦家文書については、調査後改めて借用のうえ、研究室において破損・虫蝕のひどいものには修復を実施し、編年整理のあと完成分から逐次目録作成に入った。（鎌田・明石）

(3) 史料所在調査

熊野市歴史民俗資料館と尾鷲市中央公民館において、後南朝・畠山義就の北山潜行に関する史料の所在を調査した。熊野・尾鷲地方の歴史民俗資料については、近世の津波によって流失したので、中世に遡る資料は把握できなかった。（松山）

(4) 資料収集

国立国会図書館内閣文庫所蔵史料のうち、『筒井家記』・『大和軍記』等を調査し、マイクロフィルムを入手した。（松山）

東大寺所蔵文書のうち、百巻文書の撮影を東大寺図書館に依頼し、焼付写真を入手した。（水野）

○平成3年度

あらたに朝倉教授の参加をえて、引続き調査及び史料整理を実施した。

担当者 代表 松山 担当者 朝倉・鎌田・明石

(1) 現地調査

宇陀郡室生村・曾爾村・御杖村・菟田野町・大宇陀町・榛原町の各教育委員会を尋ね、町史編纂担当者及び文化財担当者に面会して、町村史編纂の状況や編纂資料の収集保存状況、古文書等の資料の所在を聞き取り、今後の調査に関する依頼を行なった。なお、近世に至る大和と伊勢の交通路を確認するため、三重県一志郡美杉村の北畠神社及び北畠資料館、同郡関町の聖武天皇行宮関の宮伝承地を調査した。大宇陀町を除いては、系統的な資料保存の実績はなく、個人に依存している状況で、今後の計画もなかった。大宇陀町のみは、町の経済基盤と利解とにより、町史編纂に併せて、古文書等をマイクロフィルム化して保存に努めていた。（松山・水野・鎌田）

(2) 史料整理

大浦家文書の整理を続行し、近世文書については、整理及び目録作成を完成した。近代の文書については、なお引続き作業を行なっている。（鎌田・明石）

(3) 史料収集

国立国会図書館内閣文庫所蔵史料のうち、大和関係文書の収集に努め、北野天満宮文書の

春日若宮祭礼関係文書を中心に、史料の確認と写真の入手を行なった。(朝倉)

(水野 柳太郎)

地理学科

近世村絵図の調査・収集

西大寺、秋篠寺周辺の村々には区有、個人有の近世文書や絵図が多く所蔵されている。このうち1992年度は西大寺小坊町の岡本岩雄氏所蔵の文書・絵図のマイクロフィルム化をはかることとした。岡本家は近世、西大寺村の庄屋を務めた家であるため記録が残されたと考えられる。『西大寺村名寄帳』をはじめとする文書、それに『西大寺・芝・野神三村合村図』をはじめとする絵図、さらに大軌鉄道敷設に関する一件書類などをマイクロフィルムに収めた。

これらの文書、絵図は1986年度以来進めてきた西大寺の中世絵図研究にとっても重要な史料である。今後さらに西大寺芝町の岡本智喜氏所蔵文書をはじめとして西大寺、秋篠寺周辺の疋田、菅原、秋篠、中山、押熊などの文書、絵図の収集、整理にあたりとともに地籍図や空中写真、考古学上の調査結果を駆使して他学科の協力を得て総合研究を進めたい。いっぽう村落研究はこの地域にとどまらず地域を広げながら将来にわたって継続し、大和研究の一端としたい。

(野崎 清孝)